

[第 176 回藤樹人間学塾のご案内]

皆さま

2026 年 7 月



主 催 NPO法人高島藤樹会

- 日 時 2026 年 8 月 1 日 (土) 15時～17 時
- 場 所 高島市安曇川公民館(高島市安曇川町田中89) ☎0740-32-0003
- テーマ 「藤樹先生に学ぶ人間学」
テキスト 熊沢蕃山著・伊東多三郎現代文訳『集義和書』(中央公論社)p.270～
- 塾 長 田中 清行 (090-1026-7882)

2026 年 7 月 4 日(土)、安曇川公民館で第 175 回藤樹人間学塾を開きました。大津から1名を含め9名でした。

- テキスト
『中江藤樹・熊澤蕃山』(中公バックス日本の名著 11)
- テキストの見出し
「集義和書」巻十一 義論の四 君と親との軽重、蕃山の反省、蕃山を誇る人多し、治国の心得を輪読し、参考資料も説明。



■ 今日のポイント

- ・ 君と親の軽重…君(主君)と親のどちらが重いかは、時・所・位によって判断する。例えば、君に従って出陣するときは父母妻子を敵に捕らえられても敵に寝返ってはいけない。義を重しとする。一方、父が不慮の災難に遭って殺されようとすれば子は官位や俸禄を捨て、父を引き連れて逃げ隠れるのがよい。仁を重しとする。
- ・ 蕃山の反省…蕃山の名声を聞いて、従学を願う者があると聞いて蕃山は謙遜して断る。→しかし蕃山は、青年期に藤樹に出会い、学び、その後岡山藩に仕え、治山・治水事業や教育の振興に素晴らしい業績を挙げた人物であることを「熊沢蕃山物語」で説明した。
- ・ 蕃山を誇る人多し…(問)あなたを誇る人が多いのはなぜか。(蕃山)誇りは私の過ちを正し、浮いた気を静め、身を養生させる。褒めるのは、私の過ちを増し、浮いた気を生じ、気分を減じさせる。→現代はアメリカの T 氏のように褒められたい人がなんと多いことか。

[参考資料]

- ・ 鈴木秀子「人生を照らす言葉」…坂村真民「円熟」:「どんな小さい行でもよい 積み重ねられたものは 木の実のようにいつか その人を円熟させる」目の前の人や出来事に日々丁寧に向き合う中で信頼が集まる。→サッカー・ワールドカップで日本チームを決勝リーグに導き、毎回素晴らしい試合を行った森保一監督も「凡事徹底」を言われている。

■ フリートークング

- ・ 「君と親との軽重。日露戦争の時は、国のために命を捧げる青年が多かった。時代とともに意識は変わる」
 - ・ 「時・処・位」を肝に銘じたい。萩・津和野へ行ってきた。萩では明治維新の気を感じた」
 - ・ 「現地へ行くとタイムスリップできる。本物に触れることが大事」
- 等の意見をいただきました。ありがとうございます。皆で学ぶと議論が深まります。学ぶは愉し！難しいところも資料を用意して分かりやすく解説します。参加費無料です！

■ 懇親会

6 人で行いました。飲食を共にし和気あいあいと語り合って道友との共感がさらに深まったように感じられました。 ～人間学に関心のある方はどうぞご参加ください。